

科目名称：	総合教養演習Ⅱ	
担当者名：	能 雄司	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	演習	1
授業の目的・テーマ		
<p>この総合教養演習Ⅱの主眼の1つは、多岐にわたる分野の知識力及び知能を問われる「教養試験」のジャンルの内、「日本国憲法」及び「国内政治」「国際政治」関連を中心とした「社会科目」の知識の修得を目指すことです。事前に各ジャンルの資料を配布して徹底した予習をしたうえで、テスト形式で理解力を試します。もう1つの主眼は、「一般知能」のジャンルの中でも文系を志望してきた学生にとって特に苦手科目といえる「数的処理」の力をつけることです。「数的処理」は単なる計算問題ではなく、主に文章による出題であるため、解答に至るにはまず問題の全体像の把握力が求められます。</p>		
授業の達成目標・到達目標		
<p>「社会科目」の中には、「日本史」や「世界史」及び「現代社会」「倫理」「芸術」も含む。授業内小テストの中に、中学程度の理科の問題を折り混ぜます。また、英語の文章理解問題の各種出題形式に慣れるための小テストを数回行い、これらの基本的知識の修得を目指します。「数的処理」の文章題形式の問題は、計算力が多少あっても、文章理解力が備わっていないと、問題文に書かれている状況そのものが理解できないため、何が問われているかも分からないという事態を生みます。まずは、演習と解説により基本的形式の問題を反復して解くことで、文章題形式問題の解法に慣れることを目的とします。</p>		

ビジネス実務学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	建学の精神と設立の理念を基に、ビジネス社会で求められる基礎知識を修め、地域社会を理解するとともに多様な文化に対応できる幅広い教養が身につけている。	
DP(2)	医療事務や観光業を含むビジネスの専門知識や技能を身につけ、各種資格を取得し、ビジネスワーカーとして他者と協調・協働することのできる実践力を身につけている。	
DP(3)	多様なビジネス社会に対応できるよう豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。	○
DP(4)	学生一人ひとりが、ゼミナールを通して、ビジネス現場における様々な課題に取り組み解決する学修経験を積み重ねることで、その場の状況に応じた活用力を身につけている。	

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
ビジネスDP(1)					0
ビジネスDP(2)					0
ビジネスDP(3)	60	25	10	5	100
ビジネスDP(4)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
なし	《内容1》	《経験年数1》
	《内容2》	《経験年数2》
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

備考

到達目標ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
毎回の授業課題(宿題)の取り組み	毎回総てをやってきた	1~2回抜けた	3回~5回抜けた	6回以上抜けた
毎回の授業への取り組み	毎回真剣に取り組み、説明をよく聞き、素早く理解する。	真剣な取り組み姿勢を感ずる場面があり、努力してついてきてい	特別な積極性は見られないが真面目に取り組んでいる。	時々睡魔に襲われるなどやや集中力に欠ける場面がある。
資料等配布物の整理・記入	要点を配布資料に色分けして記入し配布物はファイル化してある。	配布された資料に要点をメモ書きしてファイル化されている。	配布物はファイル化されてはいないが、ほぼ保管されている。	配布資料は一応保管されているが容易に取り出せない状態である。

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 公務員・就職試験の理解&小テスト第1回(日本国憲法1) ⇒現在の学生の進路希望等をクリッカーで調査	事前に配布してある「日本国憲法」関連の資料を、しっかり予習しておく	60分
第2回 数的推理演習1「み・は・じ算」問題&小テスト第2回 ⇒学生同士相談して問題を解きクリッカーで答える	事前に配布してある「国会・内閣・裁判所」関連の資料を、しっかり予習しておく	60分
第3回 数的推理演習2「旅人算」&小テスト第3回 ⇒学生同士相談して問題を解きクリッカーで答える	社会科の資料「選挙制度・国際政治」を予習しておく。本時の「家庭課題」に取り組む	60分
第4回 数的推理演習3「通貨算」&小テスト第4回 ⇒学生同士相談して問題を解きクリッカーで答える	社会科の資料「国際連盟・国際連合」を予習しておく。本時の「家庭課題」に取り組む	60分
第5回 数的推理演習4「流水算」&小テスト第5回 ⇒学生同士相談して問題を解きクリッカーで答える	自分の持っている英語の参考書などを見直しておく。本時の「家庭課題」に取り組む	60分
第6回 数的推理演習5「濃度算」&小テスト第6回 ⇒学生同士相談して問題を解きクリッカーで答える	社会科の資料「金融・経済」を予習しておく。本時の「家庭課題」に取り組む	60分
第7回 数的推理演習6「ニュートン算」&小テスト第7回 ⇒学生同士相談して問題を解きクリッカーで答える	社会科の資料「経済関連」を予習しておく。本時の「家庭課題」に取り組む	60分
第8回 数的推理演習7「整数・連立・割合」&小テスト第8回 ⇒学生同士相談して問題を解きクリッカーで答える	社会科の資料「経済・貿易」を予習しておく。「家庭課題」に取り組む	60分
第9回 数的推理演習8「公約数・公倍数」&小テスト第9回 ⇒学生同士相談して問題を解きクリッカーで答える	社会科の資料「倫理・思想」を予習しておく。本時の「家庭課題」に取り組む	60分
第10回 数的推理演習9「年齢算・親子算」&小テスト第10回 ⇒学生同士相談して問題を解きクリッカーで答える	自分の持っている英語の参考書などを見直しておく。本時の「家庭課題」に取り組む	60分
第11回 数的推理演習10「平均算」&小テスト第11回 ⇒学生同士相談して問題を解きクリッカーで答える	社会科の資料「世界史」を予習しておく。本時の「家庭課題」に取り組む	60分
第12回 数的推理演習11「仕事算・水槽算」&小テスト第12回 ⇒学生同士相談して問題を解きクリッカーで答える	社会科の資料「世界史」を予習しておく。本時の「家庭課題」に取り組む	60分
第13回 数的推理演習12「確率」&小テスト第13回 ⇒学生同士相談して問題を解きクリッカーで答える	社会科の資料「日本史」を予習しておく。本時の「家庭課題」に取り組む	60分
第14回 数的推理演習13「期待値」&小テスト第14回 ⇒学生同士相談して問題を解きクリッカーで答える	社会科の資料「日本史」を予習しておく。本時の「家庭課題」に取り組む	60分
第15回 冬休み課題の解答と解説&小テスト第15回 ⇒低正解率の問題はグループワークで学生同士で解いてみる	社会科の資料「地理」を予習しておく。本時の「家庭課題」に取り組む	60分
<p>事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。</p> <p>また、事前事後学修としては、次回授業のための予習プリントと、当日授業後の復習家庭課題に取り組むことになる。</p>		
成績評価の方法・基準		
<p>定期試験は、60%で評価する。その他の評価配分は、以下のとおりである。</p> <p>授業時間内に行なう小テスト25%、家庭学習用課題5%・冬休み課題提出状況5%、授業への貢献・積極的関与5%で評価する</p>		
課題に対するフィードバック		
<p>授業内で実施した小テストは解答し、評価した後に返却する。</p> <p>「家庭課題」は次時に解答・解説する。各自で確認・訂正してもらい提出を求める。</p>		
教科書・参考書		
<p>2019年度版 絶対決める！ 数的推理・判断推理 公務員試験合格問題集 成美堂出新星出版社 発行</p> <p>教科書の該当ページを開きながら解説を行う。</p> <p>その他、授業時間内に演習問題や必要な資料を配布して解説する。</p>		